

2020年6月25日

日本医療情報学会の COVID-19 に関連する活動の方針について

一般社団法人日本医療情報学会
代表理事 中島 直樹

COVID-19 感染の影響により、医療機関や教育機関、関連団体・企業に勤務されている方々には、多くの困難が生じているものと拝察いたします。医療の現場におけるこの困難を少しでも軽減し、早期に克服し、また貴重な経験を次の世代に伝えるため、あるいはこの困難をきっかけに変化したシステムをあるべき姿へと導くために、日本医療情報学会（JAMI）は、以下の3つことを推進することとしましたので、学会員の皆様、医療情報技師をはじめとする医療情報関係者の皆様へお知らせいたします。

議 論

COVID-19 に関しては、日々新しい知識が更新されています。医療情報は何ができるか、今後どのように進むべきか、などを冷静に議論したいと考えます。

第一弾として、2020年6月6日、第24回日本医療情報学会春季学術大会（Web開催）において、緊急企画「ポストコロナの医療情報（座長：脇 嘉代（東京大学）」を開催しましたが、たいへん好評でした。このパネルディスカッションでは、コロナによる未曾有の混乱をイノベーションの機会ともとらえ、新しい時代に進むべき道を活発に議論しました。

今後も日本医療情報学会は、COVID-19 に関する企画を学術大会の内外、学術誌などを用いて継続的に企画・推進していきます。積極的にご参加ください。

社会貢献

COVID-19 により生じた社会課題を解決するために、明らかに有用な行動で、日本医療情報学会が実施可能であり、日本医療情報学会以外が実施することに困難がある場合、通常はアカデミアの学会が実施していない、あるいは従来の日本医療情報学会の方針にないことであっても積極的に実施します。

その一環として、日本医療情報学会が複数企業からの遠隔医療に関する情報機器等の寄付をいただき、医療機関の希望を募って提供することを開始しています。

情報共有

COVID-19に関連する医療情報について、学会員や医療情報技師をはじめとする医療情報関係者の間で情報共有を進めます。

COVID-19に関して臨床現場で生じた医療情報の課題、工夫（失敗も含む）を文書や画像で記録しておくようお願いします。記憶は薄れ、不正確になります。確実な記録として皆で共有し、後世に残しましょう。なお、これらと連携して学術誌「医療情報学」では、COVID-19に関する特集記事などを掲載する予定です。

また、COVID-19に関する標準病名マスター、JLAC10、HOT/YJ コードを日本医療情報学会のホームページに掲載しました（<http://jami.jp/about/documents/COVID19-code.pdf>）。ご活用ください。

これらの活動は、日本医療情報学会内に設置した COVID-19 関連タスクフォースにより、迅速に進めます。日本医療情報学会は、引き続き COVID-19 と戦っているすべての医療機関や医療関係者の皆様への支援を推進します。

日本医療情報学会 COVID-19 関連タスクフォース：

大佐賀敦（秋田大学）、坂本 博（東北大学）、中島直樹（九州大学）、山下貴範（九州大学）、山下芳範（福井大学）、横井英人（香川大学）

以上